猪名川について

猪名川は、兵庫県川辺郡猪名川町の大野山を源に、兵庫県と大阪府の両府県を南流し、神崎川に合流し大阪湾に注ぐ河川延長 43.2km の一級水系淀川に属す２次支川である。

川の中・下流域は、川西市・宝塚市・伊丹市・尼崎市など多くの都市域を擁すが、上流域は緑にかこまれた清流で、都市近郊に残る貴重な自然空間として多くの市民に親しまれている。

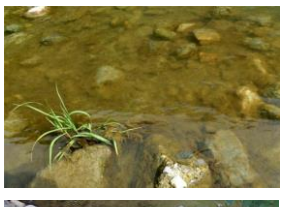
猪名川上流域の現状

当会が活動を行う場所は、猪名川の上流域にある支川「一庫大路次川（ひとくらおおろじがわ）」「田尻川」「黒川」の下流域にあたる。当支川は、かつてアユのつり場、またキャンプなどを楽しむ場として多くの都市・地域住民が訪れ、賑わっていた。

しかし、治水・利水を目的とした「一庫ダム」竣工（昭和 57 年）以降、ダム下流域で河床がアーマー化し、アユなどの魚影がみられなくなった。また、し尿処理場や広域ゴミ焼却場が上流部に建設されたことで、川のイメージが悪くなり、遊漁や川遊びを楽しむ住民が大きく減少した。

平成 14 年、こうした状況に危機感を抱いた猪名川漁協や地域住民、一庫ダム管理所が協働で環境改善の取組を開始。その結果、ダム下流域では在来の魚類の姿が確認できるようになった。また、ダム完成の約 10 年後、放流していたアユがダム湖を利用して再生産するようになり、その上流にアユが数多く遡上し、生息するようになった。

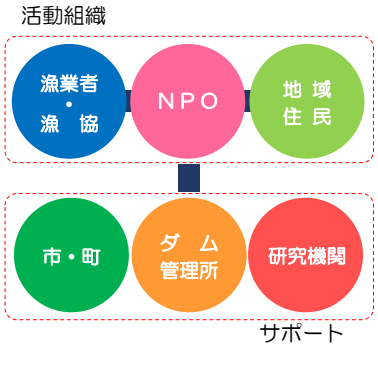
現在、アユ釣りを楽しむ遊漁者は年間 500 名弱で回復してきた。しかし、川に親しむ子どもや家族連れは未だ少ない。一方で、河道内における不法投棄やゴミの堆積は増加した。



川と人とのつながりが希薄化している都市社会において、川の魅力、またその現状を伝えることは河川環境・景観の保全を持続化させる上で極めて重要であり、その対策が求められる。

組織の設立と活動の目的・方針

上記課題の中、猪名川漁協が主体となり「猪名川を守る会」を平成 25 年度に設立。体制は、漁協・漁業者だけでなく、ＮＰＯ法人や地域住民で構成。また、一庫ダム管理所や淡水生物の研究機関等の協力も得ながら、活動を展開している。



○ 河川環境・景観・親水性の回復・保全

河道内やその周辺に堆積した人工ゴミを回収し、河川環境・景観の保全及び親水性の回復を図る。

○川への関心を高める

体験学習会を実施し、子どもたちや保護者に川に親しんでもらい、川やその恵みに感謝してもらい、関心を高めてもらう。

川と人とのつながりを回復する

（1）河川環境・景観・親水性の回復・保全

河川環境・景観の保全及び親水性の回復を図ることを目的に、堤外地やその周辺に堆積するゴミを回収する。作業は春～秋にかけて実施し、毎年 2～3 回行うようにしている。活動には、当会の構成員だけでなく、ダム管理所も手伝ってくれている。

また、アユなどの産卵場を保全することを目的に、他の協議会が主催する川の「耕し隊」に当会もボランティアで参加し、上流域の河川管理に関わる複数の主体と協働で、河床の整地を毎年実施している。

（2）川への関心を高める

子どもやその保護者を対象に、「アユのふれあい体験」を開催する。活動は、夏休み期間中。体制は当会が主体であるが、開催案内を地元自治会や町・市の広報、当日の運営をダム管理所がボランティアで手伝ってくれる。

体験学習では、①座学として川に暮らす生き物やその生息環境の現状、またこれまで実施してきた保全活動のことを伝え、②川に入りアユのつかみ捕りを体験してもらう。その後、③捕ったアユを炭火焼きし試食し、④河川清掃をみんなで行い、⑤ふりかえりとしてアンケートに答えてもらい、終了する。

活動の効果と今後の課題

堤内外の堆積ゴミは、毎年 1 回あたり 600Ｌ前後が回収されており、なかなか減少しないのが現状である。しかし、継続して定期的に活動を行っていることから、釣人やダム管理所、道路管理者から感謝の声が聞かれる。また、開催している体験学習会では、「楽しかった、また参加したい」とする回答が 4～7 割と多く、リピーターも友だちを連れ多く参加しくれている。加えて、ケーブル TV や新聞、地元情報誌、釣り関係の Web マガジンで活動を紹介してくれるなど、広く一般に我々の取組を周知してくれている。

今後も活動をサポートしてくれるダム管理所や研究機関、また市・町と連携して、猪名川上流域の河川環境・景観の保全、また将来に引き継ぐための普及活動を引き続き行っていきたい。